

和名：インゲンマメ萎ちょう細菌病菌

学名：*Curtobacterium flaccumfaciens* pv. *flaccumfaciens*

英名：Bacterial wilt of beans

分布

トルコ、アゼルバイジャン、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、ギリシャ、スペイン、ハンガリー、ブルガリア、ベルギー、ルーマニア、ロシア、米国、カナダ、コロンビア、ブラジル、ベネズエラ、メキシコ、オーストラリア等

宿主植物

インゲンマメ

病原体

グラム陽性の好気性桿菌で1~3本の鞭毛を持ち運動性がある。種子伝染し第一次感染源となる。植物残渣中で越冬することもある。他の病原細菌とは異なり気孔から感染することはまれで、通常は傷口から植物体に侵入する。降雨又は降雹後に傷口から侵入することにより第二次感染が生じる。発病には30℃以上の高温が適している。

病徴及び被害

インゲンマメでは、葉、莖、さや、種子に感染する。幼植物が発病すると生育不良となり矮小し枯死する。本葉では萎ちょう症状が現れる。葉の変色は初めはそれほど目立たないが、やがて退緑し、褐色又は赤褐色となる(図)。明瞭な萎ちょう症状を現さず、不規則な黄褐色病斑が現れることもある。さやの病徴は不明瞭で、成熟したさやでは黄緑色の病斑が現れる。感染した種子は、種皮の白色系品種では黄褐色となり、有色系の品種では顕著な変色を示さず、全体にしわを生じることが多い。ダイズでは、初め葉の先端や葉縁が退色し、退色部は次第に中肋へ広がる。やがて葉の病斑部分は乾燥して赤褐色となり、風などで抜け落ちてぼろぼろになることが多い。



図 インゲンマメの症状